

第6章 各地区の取組状況

出雲市内の各地においては、コミュニティセンターや地区社会福祉協議会等を中心として、地域住民や福祉団体等による福祉活動がそれぞれ展開されています。

海、湖、川、平野、山間部などの多様な自然環境や、人口等の社会条件をふまえ、各地区がそれぞれ地域の特性を生かし様々な取組を推進しています。次ページ以降では、コミュニティセンターや地区社会福祉協議会への聞き取り等により、具体的な活動の状況や今後に向けた展望と課題について紹介しています。

【掲載内容】

(1) 地域福祉活動の状況

「子育て支援活動」「高齢者支援活動」「障がい者支援活動」「その他住民活動」「コミュニティセンターの活動」について、地区における具体的な活動内容を掲載しています。

(2) 展望と課題

地区において、今後地域福祉活動を推進するうえでの展望と課題について掲載しています。

【地域福祉活動の方針】

地域における福祉活動は、住民にとって最も身近であり、誰もが役割や生きがいを持ち、支え合いながら住み慣れた地域で自分らしく活躍できる「地域共生社会」の実現のために不可欠です。

市民の地域における福祉活動等に関する意識等を把握するために実施した市民アンケート調査結果から、地域において日常的な関わりが少ないと関係性が希薄となり、そこから孤立化しやすく、悩みや課題を抱えた場合に、解決されずに長期化・重度化することが想定されるという課題がみられました。

このような課題を踏まえ、地域福祉活動において、①地域住民による助け合いの取組、②地域で孤立を防ぐための取組、③地域において福祉課題を抱える人の早期発見するため取組をそれぞれ重点的な取組として推進します。

今市地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・「今市わくわく広場」(月 1 回) ・「三世代交流事業」七夕まつり
高齢者支援活動	・「今市8連区でのふれあいサロン」(年 2～3 回) ・「ふたふたクラブ」(月 4 回)健康体操・もの作り・ちまき作り ・「ふれあい昼食会」(年 2 回)ひとり暮らし老人を招いて ・「今市健康マージャン」(月 1 回) ・「在宅医療座談会」(年 1 回)
障がい者支援活動	・「障がい者と高齢者との交流事業」高齢者との昼食会
その他住民活動	・「見守りネットワーク」登下校時の立哨・パトロール ・「輪や和や食堂」の充実・拡大 ・「戦没者慰霊法要」の執行 ・「要支援者の実態把握」(民事協との連携) ・「活動リーダーの育成」(地域支え合い研修会の実施)
コミュニティセンターの活動	・「ふれあい昼食会、世代間交流事業」の共催 ・「今市コミュニティセンター報」の活用 ・「社協いまいち」での地区社協の活動やサロン活動の広報

○展望と課題

- ・健康マージャンにはたくさんの男性の方が参加しているが、その他の地域活動への男性参加が少ない。男の料理教室なども男性が参加しやすい活動を検討していく。
- ・少子化が進む中、保育園に預けて仕事に復帰される家庭が増え、子育てサロンの参加者が減ってきている。土日の開催も検討していく。
- ・子どもの登下校や高齢者の見守り、要支援者の実態把握などみんなが協力し今後も安全・安心で子どもから高齢者まで住みよい街づくりを進めていく。



大津地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 民生児童委員会が、子育てで孤立しがちな保護者の不安解消を目的に「すくすく広場」を開設。 ・ 地区社協は、もちつき等を開催し、世代間交流を図る。 ・ 弥生の森子ども広場の居場所づくり事業として、サタデー教室等を開催。
高齢者支援活動	・ 安否確認等を目的に、めめの会が作ったおやつを、民生児童委員がひとり暮らし高齢者に届ける。 ・ 地区社協は、地区内で出会った人を対象に、認知症声掛け訓練や、交流等を目的に高齢者遠足を実施している。 ・ 福祉委員会が、高齢者を対象としたサロン活動を実施し、生き甲斐健康づくりを図っている。
障がい者支援活動	・ 軽スポーツ（ボッチャをたのしもう）を通して、大津地区住民が交流。 ・ 交対協が地区内道路のバリアフリー化の推進を図っている。
その他住民活動	・ 各種団体等により構成された大津ほのぼのネットワークを活かし、それぞれが連携を図りながら、安全で安心できる地域作りをめざしている。 ・ 地区社協は、住民の方々に、福祉に関する情報を発信している。
コミュニティセンターの活動	・ 健康づくり教室を開催し、地域の方々が運動を通してふれあいながら、心と体の健康の保持・増進を図っている。

○展望と課題

- ・ 活動がマンネリ化しているため、大津地区の福祉に関する問題・課題を明確にし、その解決を図る事業を実施していく必要がある。
- ・ 各団体がそれぞれ独自に福祉活動に取り組んでおり、重複する事業等もみられる。もう少し連携を図りながら効率よく事業を展開する必要がある。
- ・ 福祉にかかわる人たちが高齢化している。組織の活性化を図る上でも、65 歳から 70 歳のボランティア人口を増やす必要がある。



塩冶地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 外国人児童のための日本文化体験学習（食・遊び） ・ 児童綱引き大会 ・ 子ども食堂（子ども等の居場所づくり）開設 ・ 子ども会活動支援 ・ 子ども会活動活性化促進補助金交付 ・ 青少年修養の集い助成 ・ 塩冶百寿会（高齢者クラブ）との世代間交流事業 ・ 出雲二中生徒との交流活動 ・ 乳幼児子育てサークル活動支援
高齢者支援活動	・ 認知症研修会 ・ 高齢者福祉大会 ・ 話食交流会（高齢者料理教室） ・ 一人暮らし高齢者懇談会（いこいの集い） ・ 塩冶百寿会補助金交付 ・ ふれあいサロン活動 ・ ふれあいサロン活動推進助成金交付
障がい者支援活動	・ 塩冶愛友会（身体障がい者団体）との連携及び支援 ・ 障がい者交流会（調理実習、梨狩り、パラスポーツ）
その他住民活動	・ 塩冶地区社協機関紙発行・塩冶地区社協ホームページ更新・管理 ・ 福祉座談会（諸団体、住民組織と意見交換）開催 ・ 地域環境美化活動（美化啓発看板点検、補修、清掃） ・ 理事による「演劇集団あげそげ塩冶福祉座」の活動強化 ・ 更生女性会活動支援

○展望と課題

- ・ 塩冶地区は住宅需要と外国人増加により人口、世帯数ともに増加しているが、少子化や町内会加入率の低下がコミュニティ機能に影響を与えている。
- ・ 高齢化が進み、高齢者世帯、一人暮らし高齢者世帯が増加し、老老介護や認知症対応などの問題も乗り越えていかなければならない。
- ・ 自主財源（香典返し等の寄付収入）の減少により地区独自事業が縮小の危機。
- ・ 理事の選出が出来ない地区があり、また短期退任者が多く、安定的な運営が困難。
- ・ 地区の特性を生かして、多文化共生に向け組織強化を図り、住民が主役を基本に、活動計画を実効ある地域福祉に努める。



外国人児童の食育活動

古志地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・「りんごちゃん教室」(月 1 回)リズム体操や音あそび ・絵本の読み聞かせ ・ ミニ運動会 ・ クリスマス会 ・子育て相談 ・ 保護者同士の交流
高齢者支援活動	・さくらんぼサロン(月 2 回)看護師の会による血圧測定や健康チェックを毎回実施 ・ 特殊詐欺防止 ・ 認知症予防のおはなし ・栄養講座 ・ 人権講話 ・古志元気サロン(誰でも参加できるサロン・月 1 回) ・健康体操 ・ 保健師の健康相談 ・ 町内別サロン(8ヶ所) ・高齢者いきいき教室(ルディックウォーク・室内ペタンク)
障がい者支援活動	・障がい者軽スポーツ大会でグランドゴルフ同好会と交流
その他住民活動	・子ども福祉ボランティアによる活動 ・一人暮らし高齢者への誕生日プレゼント ・年賀状の作成、配布 ・ 福祉基本調査の実施 ・見守り支援ネットワークの推進 ・ 古志ふれあい農園の活動 ・三世代交流事業 ・ 敬老の日の御祝 ・ 戦没者合同慰霊祭
コミュニティセンターの活動	・広報紙「福祉だより」の発行と「社会福祉のしおり」を全戸に配布し、地区社協の活動紹介と福祉情報の提供

○展望と課題

- ・ 少子高齢化が進み、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯の増加、また核家族化も進み、地域社会とのつながりが希薄化。ボランティア活動においても担い手の高齢化、人材不足のため、一部の人材に偏っている。
- ・ 誰もがができる限り地域で安心して暮らしていけるよう、見守り・声掛けなどの見守りネットワークの推進、地域福祉の担い手の人材育成、そして小地域のひとり一人が福祉ボランティア活動に協力、参加できるような意識を広めることが重要。地域コミュニティの活性化を図り、地域住民がボランティア活動に積極的に参加できるよう地区社協だけでなく、各種団体と協力、連携して支え合い活動の推進を図ることが今後の課題。



高松地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 子育てサークル「てほむ」(2回/月) ・ 子ども会活動の支援 ・ 遊園地の遊具の点検、補修助成 ・ 放課後子ども教室「まっぼっくり教室」の支援 ・ 地域座談会
高齢者支援活動	・ ふれあいサロン交流事業 (番茶会:17か所 36回/年、抹茶の会:6回/年、 ひまわりコーラス:8回/年、健康マージャン:2回/月) ・ 男の料理教室(9回/年) ・ 認知症研修会(1回/年) ・ ひとり暮らし高齢者年末慰問
障がい者支援活動	・ 交流研修会 ・ 児童との交流軽スポーツ大会
その他住民活動	・ 高松地区戦病没者追悼法要 ・ 敬老事業 ・ 要支援者の見守り活動 ・ 地域、学校、保護者、子どもの協力によるあいさつ運動 ・ 子ども会活動 ・ 子どもの防犯見守り活動 ・ フードバンク
コミュニティセンターの活動	・ 世代間交流事業 ・ 男の料理教室 ・ 米作り ・ 体験学習 ・ 健康教室 ・ 講演会 ・ スポーツ指導教室 ・ 清掃ボランティア

○展望と課題

- ・ 福祉活動推進のための財源確保と、収支のバランスを考慮した運営。
- ・ 福祉活動の未来を見据えた人材の育成と担い手を確保。
- ・ with コロナ時代の事業の工夫と、参加者の拡大。
- ・ 地域の連帯感醸成による自治会加入率の向上。



「てほむ」芋掘り遠足



男の料理教室

四絡地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 子育て支援団体「なかよしコアラ」において、毎月 1 回交流行事を実施するフリーデー活動 ・ クリスマスなど年 2 回の季節行事。 ・ 子育て機関紙「キッズキッズ」を発行して情報の伝達と参加者の交流。
高齢者支援活動	・ 「ふれあいサロン」を福祉委員、市保健師、県立大学生などの協力を得て地区全体、および地区内の町内単位で実施。 ・ 「四絡連合福寿会」の活動への助成。
障がい者支援活動	・ 障がい者の会の呼称を「ホットハートクラブ」として地区内有志と共同で花壇整備などを実施。 ・ 「四絡身障者会」の活動への助成。
その他住民活動	・ 「私たちのまちは私たちが守る」：四絡地区では災害時支援隊を結成。災害の発生する前の避難に関する情報伝達、災害発生時には安否確認と避難支援活動を行う組織がある。平常時には、隊員と民生委員が同行して要支援者宅を訪問し、避難支援活動に必要な情報を聞き取り個別計画書の作成を行っている。お互い顔を知る訪問活動は、要支援者の見守りおよび孤立防止につながっている。
コミュニティセンターの活動	・ 「一人ひとりが輝く人づくり地域づくり」：四絡地区には、人口の 4.6%にあたる 570 人の外国籍住民がいる。外国籍住民を地域住民として受け入れ、ともに暮らす多文化共生の社会づくりをめざす。 お互いの食文化を紹介する料理教室やイベントでのブラジルスイーツ販売による交流、日本語が十分に理解できない外国人住民に、緊急時・災害時に役立つ「よつがね安心マップ」の作成、このほか、ブラジル人の定住に向けた自立支援につながる農場で収穫した、ブラジル野菜を使った料理レシピの提案など、地区住民による支援の輪が少しずつ広がっている。

○展望と課題

- ・ 四絡地区は多世代の住民にとって利便性の高い環境が整っている。特に商業施設、医療施設等が充実し、子育て世代や高齢者世帯には、安心して暮らしやすい町として人口が増加傾向。その一方で、都市的生活様式の広がりや地縁によって築かれた組織に基づく人間関係の希薄化につながり、地域の担い手不足や自治会加入率の減少を招いている。
- ・ 地区内では、地域づくりに長年携わってきた住民の高齢化が進み、町内会の運営や継続、地域活動に参加できない高齢者の問題や各種団体の後継者不足などが顕在化している。
- ・ このような地域課題を住民全員で協力して解決していくため、今後は子供から高齢者までが世代を超えて交流し、助け合い支え合うまちづくりへの取り組みに力を入れ、全住民が常に生き生きと活躍できる四絡地区を築き上げることに努めていきたい。



ふれあいサロン

高浜地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 子育て支援サークル「プチトマトクラブ」(年 8 回程度):0~3 歳の母子が集まり、保健師さんを講師にお招きし健康測定等を開催するとともに、茶話会や、クリスマス会等を開催し、子育ての悩み等の情報交換を行う。
高齢者支援活動	・ ミニデイサービス「たんぽぽの会」では、70 歳以上の高齢者を対象に年 6 回開催。 ・ ふれあいサロン活動で「番茶会」を 2 ブロックと 3 町内で開催。 ・ サークル活動として「なかよし会」、「えにしの会」においてはそれぞれ健康体操を年間 36 回開催。 ・ 「健康麻雀クラブ」で健康麻雀を年 10 回開催。 ・ 「いちろく会」で健康体操、物作り等を年間 9 回開催。 ・ 高浜地区安心ネットづくり協議会活動では、出雲市、出雲市社会福祉協議会及び関係団体、医療・福祉施設、小学校、かわと交番等で組織する協議会において、認知症対策及び高浜地内高齢者等への「救急医療キット」設置並びに小単位の見守り活動の組織化を推進。
障がい者支援活動	・ 高浜身体障がい者協会への活動支援を行う。
その他住民活動	・ 高齢者友愛活動(慶人会) ・ 下校時見守り(子供見守りチーム) ・ 図書貸し出し(図書ボランティア) ・ 戦没者追悼 ・ 平和式典(社協、遺族会)
コミュニティセンターの活動	・ 子育て楽座(親子もの作り教室・オープンカフェ) ・ 読み聞かせ活動(ブックランド、幼稚園、小学校で開催)

○展望と課題

- ・ 高浜地区においては、各町内から社協委員を選任していただき、事業に参加していただいているが、大半の町内が 1 年で交替されており、社協委員の活動に対する温度差もあるのが現状である。
- ・ 福祉推進委員(5 名)を配置して、これまで交流活動委員会において「たんぽぽの会」でのお世話をお願いしているが、今後、福祉推進委員を増やして、各委員会に所属いただき、委員長と連携して活動を強化していきたい。
- ・ 事業活動の参加者が、年々減少傾向にあり、特に男性の参加者がほとんどいないので、今後、活動内容の充実と周知活動の充実を図っていく。



クリスマス会



ミニデイサービス

川跡地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・「子育てサロン・どんぐり広場」年 10 回 ・「出生年度別子育てサークル」(各サークル毎月 2 回)
高齢者支援活動	・「いきいき交流会」(年 6 回) ・「茶のん話し会」(5 大字毎に年 4~12 回) ・「地域ミニ交流会」(5 大字毎に年 1 回) ・「長寿者いこいの集い」 ・「健康づくり体操教室・健康吹き矢体験」(年 4 回) ・「認知症予防講座」(年 2 回) ・「健康家庭料理教室」
障がい者支援活動	・障がい者ふれあい活動 ・「ふれあい通信」発行(年 2 回)
その他住民活動	・「世代間交流事業」(年 4 回) ・登下校見守り活動 ・個人的見守り活動 ・「困りごと相談会」(毎月 1 回) ・社協だより発行(年 3 回)
コミュニティセンターの活動	・「夏休みがくしゅう広場」 ・「伝統行事で世代間交流」(ちまき・とんど) ・「支え合い認め合い・はーとふる交流会」(障がい者交流) ・「かわとチャレンジ広場」(季節行事、伝統芸能体験) ・「かわとマルシェ」(まちづくり交流) ・「めざそう健康長寿講演会」

○展望と課題

- ・ スタッフの若返りとスキルアップ。(お試しスタッフ経験・先進地区視察研修等の導入・推進)
- ・ 地域内すべての人が気軽に参加できる雰囲気の醸成。(ユニバーサルデザインの精神の拡大・定着化)
- ・ 地区内の他の活動組織や団体との連携を図ることにより“住民一体”の意識高揚を図る。(自治体への加入促進に資する取り組み)



鳶巣地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ ぴょっこ教室(0歳児から未就学児の親子対象に月2回) ・ 食育講座 ・ 子育て講演会 ・ 幼稚園との交流会 ・ 子育て相談会
高齢者支援活動	・ 高齢者ふれあいサロン会(年7回) ・ 各町内サロン会(介護予防体操、軽スポーツ実施) ・ いきいき健康教室(月4回) ・ はっぴートレーニング教室(月4回) ・ 介護予防に向けた健康づくり ・ 認知症予防講座(年2回) ・ 慶人会活動 ・ 一人暮らし高齢者訪問活動 ・ 鳶巣お助けマン活動
障がい者支援活動	・ ハートピア出雲利用者さんとの交流活動。(年2回) ・ 障がい者団体との一日研修 ・ 軽スポーツ交流会 ・ 食育講座
その他住民活動	・ 第三中学校、北陽小学校のふるさと学習支援(地域講師による世代間交流文化継承等、地区の人・もの・ことを活かした活動) ・ 鳶巣幼稚園のお作法教室(年間10回) ・ 登下校時見守り活動、青色防犯パトロール活動。
コミュニティセンターの活動	・ 地域の特産品に繋げようブルーベリープロジェクト事業。 ・ 島根大学、県立大学出雲キャンパス協働による空き家対策プロジェクト事業。 ・ 放課後支援事業ゆめ広場(小学生対象) ・ 地域の集いの場コミセンカフェ。

○展望と課題

- ・ 高齢化が進行する一方で新しい世帯も増加しつつある中、若い年代の方への自治会加入促進をすることで鳶巣の良さを再確認し、住みよい環境づくり、福祉のまちづくりを目指す。
- ・ 子どもの時から健康づくり事業に参画することで、ひとり一人が健康意識を高め、未来を見据えた健康増進、体力づくりへと繋げる。
- ・ 空き家対策事業により、空き家を利用しての交流の場、憩いの場となる体制づくりを進める。
- ・ 地区社協のスローガン「誰もが安心して暮らせる福祉の町づくり健康と福祉、文化とスポーツのまち鳶巣」を目指し未来へ繋げる。



上津地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ つくしんぼ教室：未就園児親子対象。月 1 回
高齢者支援活動	・ ふれあいサロン事業を通じた高齢者の居場所づくり。 A サロン：75 歳以上一人暮らしの方等対象 B サロン：地区内 7 集会所が中止（年 2 回地区全体会を実施） ハイハイサロン：65 歳以上の高齢者。住民の自主組織。
障がい者支援活動	・ 地域の障がい者会の活動
その他住民活動	・ 上津地区あんしん見守り台帳：災害時見守りネットワークの充実。民生委員、福祉委員と連携して作成。 ・ 上津地区健康づくりネットワーク：地域全体で健康づくりに取り組むため会議を通じて地区の健康状況や組織の活動を共有。 ・ 運動のきっかけづくりとして上津健康づくりスタンプカードを普及。
コミュニティセンターの活動	・ コミュニティセンターは高齢者、子どもを見守る会などの相互の調整と福祉活動の中心を担う。

○展望と課題

- ・ 人と人とのふれあいで笑顔ある明るく住みよい上津を目指す。
- ・ 高齢者や障がい者の身の回りのちょっとした「お困りごと」をかみつお助けマン互助会を通じて支援する。



A サロン活動

稗原地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 児童、生徒の見守り活動 ・ 乳幼児学級、赤ちゃん支援への助成 ・ 赤ちゃんの誕生お祝い ・ 子ども祭りの開催
高齢者支援活動	・ 高齢者の見守り活動 ・ 敬老会 ・ 認知症研修会 ・ ミニデイサービス(A サロン) ・ 井戸端工房(世代間交流活動) ・ ふれあいサロン活動:各自治会に福祉サポーター2名配置
障がい者支援活動	・ 障がい者の会への助成
その他住民活動	・ 戦没者慰霊祭の催行 ・ 地区社協だより発行 ・ 喜楽会、民児協活動支援
コミュニティセンターの活動	・ 青少年健全育成 ・ 健康セミナー ・ 乳幼児学級 ・ おやじ塾 ・ 見守りネットワーク活動:地区全体のあらゆる組織が参加し、高齢者や障がい者、子どもなどを見守り

○展望と課題

- ・ 福祉活動をサポートしている方々の高齢化が進み、新しい人材が不足している。
- ・ 連帯感が強く、ご近所同士の思いやりと支え合いが健在。
- ・ 地区社協が中核となって福祉の充実と継続を図る。



朝山地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 子育てママさん交流会（未就園児さくらんぼの会） ・ 子どもと楽しく遊ぼう（幼稚園児交流）：月見団子づくり、餅つき会 ・ 三世代交流：夕涼みコンサート、ひなまつりコンサート ・ 子どもサロン（居場所づくり；夏休み、冬休み）
高齢者支援活動	・ いきいきサロン：高齢者の集い、男の料理教室、認知症予防研修 健康マージャン ・ ふれあいサロン：町内サロン・分団健康サロン ・ 高齢者見守りネットワーク：わがとこネットワーク
障がい者支援活動	・ 交流会等（出席者が殆どなく活動休止中）
その他住民活動	・ あいさつ運動・ボランティア活動・青パト隊見守り活動 ・ 社協だより発行
コミュニティセンターの活動	・ 災害時の要支援者の支援・介護予防健康教室 ・ 豆腐作り体験学習・米作り体験学習・センターだより発行

○展望と課題

- ・ 高齢化率が 40%を超え、ひとり暮らし高齢者世帯・高齢者のみの世帯が増加している。
- ・ 若者の減少で、次世代の担い手が不足している。
- ・ サロン活動等の重要性について福祉委員に理解を求める。
- ・ サロン活動に男性の参加者が少ない。
- ・ 災害時の要支援者の避難及び援助。
- ・ 自主財源（香典返し等の寄付収入）の減収により、今後、地区独自事業が縮小・廃止になる可能性がある。
- ・ 「朝山お助けマン互助会」による高齢者や障がい者の身の回りのちょっとした困りごとをお手伝いする。
- ・ 各種団体と連携を図り、見守り活動の推進を図る。



乙立地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 児童福祉費等の支援活動
高齢者支援活動	・ 健康マージャン ・ 各町内にまめな会 ・ 健康体操 ・ 世代間交流ふれあい会食 ・ 年末高齢者宅訪問餅配り ・ 見守りネットワーク事業 ・ 健康学習会 ・ 買い物サポートと健康学習会
障がい者支援活動	・ 障がい者団体への活動費を助成 ・ 共生支援事業
その他住民活動	・ 毎年、春分の日に戦没者慰霊祭を実施
コミュニティセンターの活動	・ 地域を基盤にした様々な団体、組織を中心とした活動やコミュニケーションの場として活用。

○展望と課題

- ・ 4 年前に小学校が統合し、又、コロナ禍の影響で全体の福祉事業の縮小及び中止が相次ぎ、残念ながら高齢者の憩いの場がなくなっている状況。
- ・ 健康マージャンは H30 に立ち上げてから毎回（1 回/月）24 名程度の参加があり定着している。
- ・ 高齢化率が 40%を超えている中、住み慣れた地域で元気に暮らせる地域を目指して、地区社協としても少人数でも楽しめる事業計画の検討を進める。



神門地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ あんじゅ:0 歳児の身体測定と保護者の交流／月 1 回 ・ スマイルキッズ:1 歳～就園前児の保護者の交流／月 2 回 ・ 子どもサロン:小学 1 年生～3 年生の交流 ・ 青色パトロール隊活動(隊員 17 名で自主的にパトロール) ・ 夏季修養の集い(座禅)
高齢者支援活動	・ ふれあいサロン事業:ふれあいサロン／月 1 回、町内 B 型サロン ・ わがとこネットワーク:社協・民児協・慶人会の三者による声かけ・見守り活動 ・ 全町内アンケート ・ 住民座談会 ・ 認知症研修会 ・ 健康マージャン ・ ふくし相談日の相談所運営
障がい者支援活動	・ 地区身障者協会との研修／年 1 回 ・ あいサポーター研修
その他住民活動	・ 神門地区ボランティアグループ:在宅介助者への訪問活動、地区内奉仕活動 ・ 福祉互助組織「神門地区手互の会」:生活支援活動 ・ 神門ヒスタム:歴史探訪 ・ かんど花と緑の会:地区内花壇管理
コミュニティセンターの活動	・ 広報紙発行 ・ 総合文化祭 ・ 子ども体験活動 ・ 健康増進 ・ 新成人を祝う会 ・ 人権教育啓発の活動

○展望と課題

- ・ 退職年齢が延びた影響で地域福祉の担い手が不足している。
- ・ サロン事業や「わがとこネットワーク」の充実、ボランティアグループとの連携促進等により関係機関の連携を深め、子どもや高齢者、障がい者に「やさしいまち神門」を目指す。



神西地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 子育てサロンは毎週火曜日開設、子育て中の家族を対象に開催し悩みや不安を解消。 ・ ベビーマッサージ ・ おっぱい相談 ・ 栄養相談 ・ クリスマスコンサート ・ ふれあいお茶会 ・ 子ども活動は笹まきづくり・もちつき大会・伝承あそび等、園児や小学生を対象に地域住民との交流会を実施。
高齢者支援活動	・ ふれあいサロンは80歳以上の高齢者を対象にふれあいサロンを月1回開催。 ・ 番茶会を町内ごとに集会所で開催。閉じこもり防止、生きがいづくりの手助け、孤独感の解消を目的に、神西ボランティアセンター・JAやすらぎ会、民児協、地区内の福祉施設との連携・協働により実施。 ・ 敬老の日に敬老大会の開催および祝い品の配布。参加呼びかけにあわせて見守り活動・声かけを実施。
障がい者支援活動	・ 民児協による、寝たきり・身障者の方への訪問活動を実施。
その他住民活動	・ 登下校時の「あいさつ運動」、青パトでの見守り活動。 ・ 地区内13ヶ所遊園地を地区ごとに安全点検・清掃活動 ・ 社協だより「じんざい」の発行。
コミュニティセンターの活動	・ プランターの花植え、手作りおもちゃ工作、環境学習など、園児や学校の児童との交流活動の中で、同世代だけでなく世代間のつながりを深めている。 ・ ウォーキング・健康教室・健康講演会・料理教室等、健康づくりを推進する活動を実施。

○展望と課題

- ・ 高齢者世帯が増加し、自治会・町内会の脱会も点々とみられる。そのため、地域住民どうしの助け合い活動が低調になり、協力関係が希薄化してきている。
- ・ ボランティア活動への参加の減少、ボランティアの高齢化もあり、高齢者等の要支援者の地域での見守りや支援が困難になりつつある。
- ・ 今後、他団体とも連携、協調しながら地域福祉活動を支える人材の育成や組織づくり、魅力ある活動のあり方などを検討していく必要がある。



長浜地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 育児講演会 ・ 育児サークルでの意見交換 ・ 長寿会と園児によるサツマイモの苗植え付けから芋ほり、焼き芋会までの活動 ・ 小学校1年生対象の伝承（お年玉、こま、竹とんぼ、ほか）遊び ・ 保育園との餅つき
高齢者支援活動	・ 笹巻づくり ・ 男の料理教室 ・ 高齢者のための料理教室 ・ 敬老大会 ・ ふれあいサロン会（7団体）
障がい者支援活動	・ あいサポーター研修 ・ 地区の障がい者との交流 ・ 地区内の障がい者団体の再結成に向けた会員募集
その他住民活動	・ 戦没者慰霊祭 ・ 「長浜社協だより」発行
コミュニティセンターの活動	・ 救命救急講習の実行 ・ 「健康づくりを進める会」による健康増進

○展望と課題

- ・ 福祉委員の任期が2年と短く、活動の発展につながりにくい。
- ・ 福祉活動を支える地域のボランティアの育成が必要である。
- ・ サロン会が全体的に高齢化していて、予算の管理や実施の計画が難しい。
- ・ デイサービスなどの普及に伴い、サロンへ出かけにくくなり、人数が減少している。



合同サロン



いもほり
小学生との交流会

平田地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 小学生児童の事業が多く、就学前の幼児等の事業は少ない。
高齢者支援活動	・ 引きこもり防止のスポーツやモノづくりの活動が多い。 ・ 町内の福祉推進委員が中心となり、サロン活動に取り組み、世話するほうも楽しみながら活動できるようになり、活発になった。 ・ 新型コロナウイルスの感染予防のため、サロン活動も自粛され、交流が減り、体調不良を訴える方もいる。引きこもり防止、居場所づくりのためサロンの再開を希望する声も上がり、予防対策を徹底して高齢者事業を再開するよう取り組んでいる。
コミュニティセンターの活動	・ ボランティアスタッフは、地域福祉関係団体と兼ねている方も多く、事業に対しての情報も寄せられ、また新しい事業も取り入れやすい反面、高齢化が進んでいる。 ・ 参加しやすいよう、町内福祉推進委員が日頃から声掛けをし、いつでも話しやすい雰囲気を作っている。

○展望と課題

- ・ 年々ボランティアスタッフの高齢化が進み、事業を開催したいという思いはあるが、なかなか踏み切れないもどかしさもある。退職後の年代の方が、スタッフに加わっていただけるよう、コミュニティセンターや自治会等の人とのつながりから情報を得て、協力をお願いしたい。
- ・ 事業に参加する方は概ね固定化され、周知方法や声掛けも工夫が必要。ここ数年新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、事業の中止や参加人数の制限など、参加したくてもできない場合など引きこもりの高齢者には、ストレスを感じることも多いと思われる。少しずつコロナウイルスの感染予防の対策を取りながら、また感染リスクの少ない事業を考えながら、取り組んでいく。



灘分地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・「みずほのくらし創り」福祉活動計画に基づいた「もちつき会」 ・「クリスマス会」
高齢者支援活動	・「敬老会」「いこいの集い」「認知症講演会」の開催 ・なかよし体育会への招待・交流
障がい者支援活動	・民生委員、地区社協役員による「家庭訪問」活動
その他住民活動	・自治協会、町内会長、各委員会による自治振興 ・地区夏まつり、体育祭、文化祭、防災避難訓練の開催 ・消防後援会、防災委員会、交通安全協会による地域安全活動 ・青少年育成協議会、地域安全推進員、少年補導委員、子どもみまもり協議会、青色パトロール隊、広域交番連絡協議会による青少年育成指導 ・見守り巡回活動 ・ 寿会連合会 ・ 小学校 PTA ・幼稚園や地域、家庭との連携 ・ 支援活動 ・地区社会福祉協議会だより、地区広報等の発行
コミュニティセンターの活動	・広報なだぶん、コミュニティセンターだよりの発行 ・人権同和教育の啓発 ・ 文化祭 ・ 文化講演会 ・なだぶん竹あかり ・ まちづくり学習会 ・ 地域防災学習会 ・地域みんなで奉仕大作戦 ・ ピンポン ・ 灘分ふるさと探訪 ・出雲神話 ・ 日本古来の”おもてなし” ・ SDGs ・ 平和学習会 ・高齢者向け運動会 ・ 高齢者の遠足、歌って笑って楽しまい

○展望と課題

- ・福祉活動を支える人材の確保と養成を推進する。
- ・少子高齢化が進む中、地域活性化や安心安全まちづくりの具体的な方策を検討する。
- ・社協活動・民生委員活動の負担軽減を図る。
- ・向陽中学校区内の地との連携、調和のとれた活動を推進する。
- ・地域づくり推進目標「心豊かで、生き生きと、活力あふれる郷土づくり」を目指すための結束した活動を推進する。



認知症講演会



クリスマス会

国富地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 子育てサロン「くっぴい」：当地区でも少子化の傾向があり、近所にあそび仲間がいない・子育ての悩みを話す仲間がいない等の悩みを持つ家庭も少なくない。就学前の子どもを子育て中の保護者を対象に、毎月１回子育てサロン活動をしている。 - 子どもと一緒に遊んだり、季節の行事を取り入れたり、おやつを作ったりと、子育て中の保護者の情報交換・交流の場、情報提供の場となっている。
高齢者支援活動	・ ふれあいサロン：高齢者の方が気軽に集まり、お茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ。健康体操やレクリエーションを楽しむなど、和やかなひと時を過ごしている。最近の身近な話題や地区の行事の話など、会話が盛り上がりニコニコと楽しく過ごされる姿がある。
その他住民活動	・ 子ども見守り隊：「国富青色パトロール隊」を中心に、登下校時の子ども達への声かけ活動や、地区内の巡回など、子ども達の見守り活動を行っている。
コミュニティセンターの活動	・ 高齢者・介護者の集い ・ 子どもの居場所づくり ・ 世代間交流会 ・ 社協だより ・ 国富を元気にするウォーキング ・ その他専門部による各種事業。

○展望と課題

- ・ 人口の変動は少ないが、少子高齢化時代を迎え、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯が増えてきている現状があり、単独世帯と夫婦のみの世帯は多数を占めている。
- ・ 地域のつながりが弱くなっている状況で、核家族化の中、学校と家庭を往復する子どもたちは、地域の多世代の「人」や、「もの」との出会いが少なくなっている。
- ・ 地域福祉を進めるには、高齢者・障がい者等が安心して暮らせるように、「ふれあい」～「ささえあい」～「たすけあい」の「三愛運動」を継続し、住民一人ひとりのつながりを強め、お互いの信頼関係を築くことが重要である。



西田地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
高齢者支援活動	・「ふれあいサロン事業」を地区ごとに年３回程度行っている。新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止をせざるを得なかったが、体操やレクリエーション、音読など全員参加型のプログラムを取り入れて開催。 ・「ふれあい遠足」を実施。密を避けるため２回に分け、一畑薬師、本性寺、佐香（松尾）神社を訪問。
コミュニティセンターの活動	・子育て支援（おたのしみ会・クリスマス会） ・クラブ活動の育成支援 ・生涯スポーツの振興 ・福祉施設との連携

○展望と課題

- ・福祉活動は裾野が広くリーダーに係る負担が大きく、分野毎に責任者を分散させたら、現状より濃密な活動ができる。
- ・民生委員が中心となっている地域社協の活動だが、協力していただけるボランティアの育成事業を進めていきたい。



ふれあい遠足

鰐淵地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 子育て講演会
高齢者支援活動	・ 長生き健康教室:健康で長生きするための学びの場として鰐淵地区 7 会場で開催。 ・ 認知症予防のための研修会:県立大学から講師を招き、予防への意識を深めた。
その他住民活動	・ 敬老会 ・ サロン ・ 福祉委員研修会 ・ ヨガ教室 ・ 小学生を対象とした節分豆まき会 ・ 鰐淵ふるさとかるた大会等
コミュニティセンターの活動	・ スマホ教室:正しい使い方を学び、安心・安全な使用をする

○展望と課題

- ・ 鰐淵地区は少子高齢化が顕著で高齢化率約 50%、地域によっては 65%に達する。しかし、鰐淵地区内の高齢者は元気な人が多く、農業や家のまわりの管理をするなど家庭での大きな役割を持っている。
- ・ 民生委員、福祉委員を中心に福祉活動を担っており、世代交代も必要となっているが新たな担い手が不足している。
- ・ 地区内の 40 歳以上の独身者が多く、独身高齢者が増加している。
- ・ 地区内の若者が少なく、結婚や出生も少ない。
- ・ 今後各団体と連携しながら、さらに地域での声かけ、見守り、助け合いの活動が必要である。



健康教室



認知症予防研修会

久多美地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・「子ども食堂」運営を通じて、人々が「集う場」、「学び場」、「育む場」をつくり、「子どもたちの健やかな成長」と「地域交流」（世代間交流）を目指し活動をスタートした。 「子ども食堂 こもれび kitchen」は、スタッフ 3 名が作った料理を『みんなで一緒に食べよう』と毎月 1 回開催している。久多美地区では、約 20 年前に比べ約 55%も児童が減少していることから分かるように、少子高齢化が進み、核家族も増えている。このことから、多忙な保護者が多くなり、児童の「孤食」や「手作りの食事を食べる機会」が減少してきた。「子ども食堂」を通して、「みんなで食べると美味しい」ことを実感してもらい、食に興味をもつことやバランスの良い食事の大切さを学んでもらう。 子ども食堂の運営に当たっては、SDGsの目標の一つにも挙げられている「つくる責任 つかう責任」の視点から、地区住民等に家庭で消費できない食材提供を呼びかけこの事業への関心と、食べ物を無駄にしない暮らしについて協力をお願いしている。

○展望と課題

- ・「子ども食堂」は低価格でバランスの良い食事を提供することに意義がある。そのためには、無償の食材提供に期待をしている。近年、公的な場所でも様々な取り組みをされているので最大限活用し、継続することを一番の目標としている。
- ・現在の調理スタッフは3名で、事前準備から当日の調理まですべてを行っているが、今後は地区住民等から新たなスタッフを募るなど、余裕のある活動が出来るよう支援したい。
- ・この月 1 回の夕食を提供する「子ども食堂」が児童、保護者に定着した後は、朝食を食べてこない（家庭でしっかりと食べられない）児童のために、朝食の提供も実施したい。



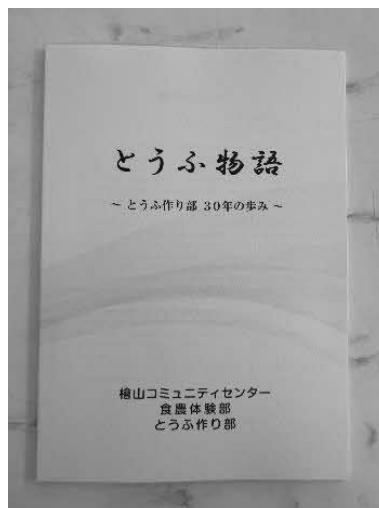
檜山地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
コミュニティセンターの活動	・ 以前から有志によるとうふ作りを定期的実施。これは地域住民が美味しいとうふを食べて健康に暮らせるようにと開始され、その材料である大豆は地域のサークルの方々が種まきから収穫まで一連の作業を通し、完成したとうふは地区内の希望者に供給。なお、【「とうふ物語」～とうふ作り部 30年の歩み～】の発刊など精力的に元気に楽しく活動している。

○展望と課題

- ・ 檜山小学校が閉校となり隣接する家庭科室でとうふ作りを実施しているものの、その建物は築60年と老朽化が進んでいる。今後の耐用年数と相談しながら檜山の伝統をなんとか絶やさず続けたい。
- ・ 作業場所の提供や作業者を増やしていくことも必要。



東地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ ボランティア活動『子育てを楽しむ会』月1回に変更 ・ 子育て中の親子との交流、救急救命法講習、歯科衛生指導 ・ 子育て中の親子の情報交換と育児経験のボランティアとの交流
高齢者支援活動	・ 長寿の会での健康教室 ・ 講演会又グランドゴルフ等に依る健康増進活動の開催 ・ スポレククラブ ・ 銭太鼓クラブ ・ ラージピンポンクラブ ・ 趣味充実と病気予防対策や健康応援活動 ・ 年4回発行の『おまめですか』の配布等に依る声掛け訪問の実施
その他住民活動	・ 地域在住中高年者による小中学生の登下校の見守り活動（東地区子どもの安全を守る会を中心に） ・ 歳末助け合い活動として、80歳以上のひとり暮らし高齢者世帯及び80歳以上の2人暮らし高齢者世帯にお手紙を添えて品物を贈呈する（配付は民生・児童委員に依頼）
コミュニティセンターの活動	・ 地元の若者をアドバイザーに招いてスマホ教室と世代間交流の実現を目指す（月1回、3ヶ月連続で実施） ・ サロン活動（2サロンは健康体操中心に又1サロンは歌声の集い）の閉じこもり防止と健康増進活動 ・ 介護予防教室（月2回 6か月間 県立大看護学科及び出雲市医療介護連携課と連携して実施）

○展望と課題

- ・ 地域における支え合い機能の低下が懸念されており、複合的な課題を抱えたまま社会的に孤立する人や制度の狭間にある問題を解決できないまま抱えている人への支援が課題となっている。
- ・ 社協、コミュニティセンターを中心に自助、互助、共助をもとに地区住民の意識改革を目指して、連帯感を高め、要避難支援者の災害対応も含めた地域福祉活動を進めていく。
- ・ 若い人、高齢者を問わず、世代を超えての体制づくりを目指す。



見守り活動



サロン活動

北浜地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 小学校単位での世代間交流事業への支援：北浜小学校「さつま芋苗植えから収穫まで」、「海岸清掃と磯活動」、「北浜ぼうけん隊（地域探訪学習）」、「海苔摘み体験」など。 ・ 子育て世帯への助成金交付（令和４年度～）
高齢者支援活動	・ サロン事業（現在６サロン。１カ所は地域自主サロン）：地区集会所での高齢者の居場所づくりと介護予防活動。活動内容は茶話会、体操、レクリエーション、保健指導、季節の行事など。 ・ 健康づくり活動：健康体操教室、認知症研修会等内容を変えて健康維持・介護予防に繋がる活動を行っている。 ・ 見守り活動：民生委員と福祉委員を中心に見守り・声掛け等を行う。また、民生委員と福祉委員の両者による情報共有や連携強化のため連絡会を開催している。
その他住民活動	・ 地区社協だよりの発行、福祉委員研修会など。
コミュニティセンターの活動	・ コミュニティセンター専門部（３部）のうち、健康福祉部が自主企画事業の一環で福祉推進に関する事業を行う。

○展望と課題

- ・ 少子高齢化と過疎化が一段と進み、また新型コロナの影響による住民意識の変化も見受けられるが、地域住民がより住みやすく、幸せを感じるようなまちをつくっていくことが必要である。
- ・ 第４次北浜地区福祉活動計画を策定し、地区民が「知恵よせて みんなで築こう 北浜の郷」のスローガンのもと「青い海のように清しい福祉のまちづくり」を目指して、「福祉意識の向上による地域づくり」、「住民総参加の福祉活動による地域づくり」、「健康で暮らせる地域づくり」、「子どもたちを大切にする地域づくり」、「高齢者に優しい地域づくり」及び「安全安心で快適な暮らしのできる地域づくり」の基本方針を定め、年次計画に沿った事業を実施し、充実と推進を図っていく。



佐香地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
高齢者支援活動	・ ふれあい広場：コミセンの桜並木を眺めてもらい、お花見会として、保育所児との交流、高齢者同士の交流を深め、生きがいと閉じこもり予防を目的として実施。 ・ 高齢者グラウンドゴルフ大会：高齢者の健康増進と交流。 ・ ふれあい運動会：健康増進を目的に、保育所児と競技を楽しむ。 ・ ふれあい遠足：ひとり暮らし、昼間ひとり暮らしを対象に、地区外へ出かけ、閉じこもり予防を目的とする。 ・ サロン事業：65 歳以上の方を対象。参加者 24 名と健康づくり推進員の協力で月 1 回開催。引きこもり防止及び認知症予防を目的として、レクリエーション、もの作り、外部講師を招くなど内容を工夫している。

○展望と課題

- ・ 事業を開催する施設（コミュニティーセンター）が遠く、バス・車などを利用しないと参加しづらい面がある。
- ・ 地域での高齢者福祉事業についての参画は、高齢者組織があるので協力体制は整っているが、参加する方が偏りがちとなっている。



ふれあい広場

伊野地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 長期休業中等の児童の居場所づくり ・ 三世代交流事業：しめ縄づくり、いがもち作り、カルタ大会、ホタル鑑賞会等 ・ 伊野いち（産直市）への児童の参加・高齢者による PTA 活動支援 ・ 子育てママの会、赤ちゃん訪問 ・ 赤ちゃん誕生お祝い金贈呈 ・ 国際ワークキャンプでの児童との交流活動 ・ （プチ）わくわく広場：未就学・児童と保護者同士の交流活動 ・ 伊野ベーション：大学生、子ども、保護者等の交流活動
高齢者支援活動	・ 認知症研修会 ・ 高齢者健康教室 ・ 交通安全教室 ・ 地区敬老会 ・ ひとり暮らし高齢者への慰問品贈呈 ・ 高齢者見守り活動 ・ ふれあいサロン活動 ・ 小学生とのふれあいミニ運動会
障がい者支援活動	・ 民生委員、社協役員による慰問品贈呈 ・ 見守り活動 ・ 災害緊急時における避難支援
その他住民活動	・ 交通対策協議会、青パト隊、見守り隊、更生保護女性会、地区住民有志による児童登下校時の見守り声掛け活動 ・ 社協だより発行

○展望と課題

- ・ 人口減少、少子高齢化が進む中、持続可能な伊野をつくるため 10 年後の伊野将来ビジョンである「やって未来こい!ENO 暮らし 2030」を策定。このビジョンに則り、実動部隊の「未来こい!ネット」と連携し、地区民がお互いに支えあい助け合いながら安心して住み続けられる地域づくりを目指す。
- ・ 地理的に買物や通院に不便を感じる人が多い地域であり、高齢や障がいにより車の運転が困難になったとき、公共交通機関や代替交通手段の確保、移動販売の誘致等を考えていく必要がある。
- ・ 最近多くなっている災害に備え、高齢者等の避難支援が適切に行える体制づくりが必要。平常時の声掛け等地域住民の連帯感を高めていくことも重要であることから、今後も民生委員や福祉委員を中心に声掛け訪問等も継続していく。



高齢者による PTA 活動支援



ふれあいサロン活動

佐田地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ あいさつ運動：月2回 各種団体 30 名が通学路(9 か所)で挨拶 ・ 熊鈴贈呈：町内小中学校3カ所 防犯パトロール・青少協 ・ とんど祭：町内保育所2カ所 地区社協・高齢者クラブ・JA 佐田 ・ 各小中学校教員と民生委員の懇談会
高齢者支援活動	・ ふれあいサロン：10 地区 11 グループ自主的に活動(コロナ感染状況に対応する運営サポートの一環で町内講師一覧を作成) ・ ふれあいの集い：年 2 回。ひとり暮らし高齢者、地区社協役員、福祉委員、民生委員が交流 ・ ふれあいレター：毎月1回 小中学生、ボランティア、福祉委員がひとり暮らし高齢者宅に見守りハガキを送る ・ 柚子味噌作り：民生委員による高齢者宅を見守り訪問 ・ 介護予防出前講座：やまゆり ・ 高齢者世帯住宅修繕：建築組合 ・ 高齢者世帯困りごと支援：くぼた錦森びとクラブ(草刈・除雪・墓回り清掃等)
障がい者支援活動	・ 干支開運ミニ色紙作り：やまびこ園制作(歳末たすけあい事業)
コミュニティセンターの活動	・ 地区社協だより：年 4 回発行。 ・ 健康づくり講演会：年 2 回。高齢者クラブ、更生保護女性会、コミュニティセンター、地区社協の合同開催。 ・ 安心安全一斉パトロール・歳末特別警戒一斉パトロール ・ 手作り紙芝居上演(食育・防犯・いじめ防止)：更生保護女性会 ・ 佐田未来ビジョン：4つの部会に分かれ地域課題を検討・対応 ・ 農村 RMO 事業

○展望と課題

- ・ アフターコロナにおける事業の工夫・継続・再開
- ・ 過疎高齢化に伴う高齢者世帯への見守りの強化、相談窓口の充実
- ・ 住民主体の支え合い活動の立ち上げ・人材育成・担い手確保(関係人口の創出拡大を含む)・得意分野のマッチング
- ・ 町内の福祉関係団体との連携を強化、地域課題に対する素早い対応・事業化



多伎地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 体験交流事業：折り紙教室、いもほり体験会、銭太鼓体験会、しめ縄づくりなど ・ 親子交流イベント：夏まつり、コンサート等 ・ チャイルドシートの貸出し
高齢者支援活動	・ 見守り活動：ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯へあんしんカードの設置、月 1 回のほっとだよりの配布を兼ねた見守り訪問 ・ ふれあいサロン：町内 13 か所で開催 ・ 健康づくり研修会 ・ ねんりんの集い：ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯を対象に生きがいづくり研修会 ・ 認知症に関する研修会
障がい者支援活動	・ 軽スポーツ交流会（ペタンク・ボッチャ・カローリング） ・ 多伎町身障者協会への支援
その他住民活動	・ 福祉合同研修会 ・ 男の料理教室：引きこもり防止、地域活動への参加啓発 ・ 地区社協だより発行：年 4 回発行、地域福祉の情報提供と活動紹介
コミュニティセンターの活動	・ 広報誌：年 6 回発行 ・健康ウォーキング ・ 専門部による各種事業

○展望と課題

- ・ 住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりを進める。（見守り活動の継続。支え合いの地域づくり。サロン活動やイベントなど、小さな子どもから高齢者まで出かけやすい場所を提供していく）
- ・ 役員及び福祉委員の選出が難しく、安定的な運営が困難。（福祉活動の推進を担う人材育成の強化が必要）
- ・ 近年、地区内の各種団体と連携を取りながら事業を行っている（多伎地域共催団体連絡会）。今後も一層の連携を図り取り組んでいきたい。



湖陵地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 健全育成を目的とした世代間交流：稲作体験学習支援（田植え・稲刈り・餅つき）を年間通して実施。昔あそび体験（コマ回し・あやとり・けん玉）
高齢者支援活動	・ 敬老フェスティバルの開催（年 1 回 9 月開催） ・ 認知症予防研修（絵手紙教室を年 1 回開催） ・ 高齢者見守り活動：80 歳以上のひとり暮らし高齢者及び 80 歳以上の高齢者夫婦のみ世帯を対象にハガキを年 2 回送付。また、12 月には 80 歳以上のひとり暮らし高齢者宅に手作りの赤飯を届け、見守り、声がけを実施
その他住民活動	・ 広報活動（年 2 回 7 月・3 月に地区社協だよりを発行）：地域福祉活動の推進、地区社協や他団体の活動を発信する。
コミュニティセンターの活動	・ コミセン専門部の福祉部では、認知症理解の為の寸劇を作成し、福祉フォーラムにて発表。認知症になっても地域で生き生きと生活できる町づくりを目指す。

○展望と課題

- ・ 高齢化が進む地域であり、福祉委員等の役員選出も困難になっている。今後の湖陵地域を担うリーダー育成が必要である。
- ・ ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯も増えている現在、助け合いの場を作り、自助、公助、共助の三本柱が充実した組織作りが急がれる。
- ・ 地域の人が自由に集まり、寛げるような場所作りを実現したい。たとえばコミュニティカフェや認知症カフェの開設。（コミュニティセンターの福祉部が主となって、認知症カフェの立ち上げを目指している）



杵築地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 子どもの遊び場新設及び補修事業：毎年度、1～2 町内会で遊具の修理、塗装の塗替えを行っている。
高齢者支援活動	・ 高齢者手打ちそば教室：毎年度、高齢者を対象に全 5 地区で手打ちそば教室を開催し、約 100 名の参加がある。 ・ ふれあいサロン活動：各町内を中心に研修会や茶話会等を実施している。
その他住民活動	・ 制服譲渡会：制服が不要になった人から必要としている人へ渡れば、少しでも保護者の経済的負担軽減になるとの考えから大社小学校・大社中学校の制服を譲ってもらい、無償制服譲渡会を開催すべく制服を集めている。 ・ 福祉活動委員研修会：年度当初に福祉活動委員の研修会を兼ねた研修会を実施し福祉活動推進事務等についての理解を深めている。 ・ 福祉座談会：年度末に各地区ごとに、地区の福祉活動についての講演会を含めた意見交換や情報交換を行っている。 ・ 杵築地区社協だより「きづき」を年2回発行している。
コミュニティセンターの活動	・ 「介護予防教室白うさぎ」、「生涯現役の会」の共催事業を共同で実施し助成している。

○展望と課題

- ・ 社会福祉とは、高齢者のみならず、児童、障がい者の弱者の方々に対する支援、援助と幅広い活動が必要であるが、現在の活動がそれぞれの方々が真に必要としている支援になっているのか思考しながら実施している。
- ・ 「ふれあいサロン活動」など各町内を中心としたフェイス to フェイスの付き合いが、地域のつながりや支えあいをつくる。
- ・ 大社小学校、大社中学校の校区であり、制服を着用していることからリサイクルや経済的負担軽減の想いから無償制服譲渡会の取り組みを進めており、年間を通しての大きな活動になっていると考える。



高齢者手打ちそば教室



福祉活動委員研修会

荒木地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 児童遊園地の補修整備 ・ 登下校時の見守り
高齢者支援活動	・ 高齢者ひとり暮らし世帯等の見守り声かけ活動 ・ 認知症予防についての講演会 ・ ふれあいサロン 各町内単位 ・ 回想法研修 4 団体（年間通して月 1～2 回実施）
障がい者支援活動	・ 見守り、声かけ活動 町内単位で実施
その他住民活動	・ 広報詩の発行（年 2 回全世帯配布） ・ 三世代交流事業（町内単位）・ 小学校、児童クラブとの交流等
コミュニティセンターの活動	・ 3.11 メモリアルウォーク（福祉と共催） ・ 地域各サークル毎の作品展の開催 ・ 各講座の活動状況の紙上発表 ・ あらきプレイランド設置（キッズスペース）

○展望と課題

- ・ 新型コロナウイルスが蔓延し、なかなか終息したと言えない状況の中ではあるが、今できることから実行していくことが重要である。特に、地域のコミュニティが希薄になっている中で、見守り、声かけ活動を重視していくことを一番の課題としている。それには、地域の各種団体（特に民生委員・児童委員）と連絡を密にし、協力体制を強化することが大切である。（年 2～3 回、福祉座談会の実施等）
- ・ 全国的に、少子高齢化、ひとり暮らし世帯・ひとり親世帯の増加、ヤングケアラーの問題等さまざまな課題が山積し、地区にも大なり小なりその波が押し寄せていると思われる。地域住民が支え合い、協力し合って乗り越えていかねばならない課題である。
- ・ あらゆる課題解決に向けて、地域福祉団体組織として何ができるか、何をすべきか、知恵を出し合い進んで行きたい。



学生と認知症研修 交流



あらきプレイランド
（小さな子どもたちの遊び場）

遙堪地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 児童遊園地の補修整備 ・ 幼児サークル、にこにこサークル活動補助 ・ 子供の居場所づくり、ようかんなかよし教室 ・ 新生児誕生祝金事業
高齢者支援活動	・ 敬老事業 ・ 各地区でのサロン活動 ・ 高齢者ふれあい交流遠足
その他住民活動	・ 買物・家事代行サービス事業 ・ 寄せ植え講座 ・ 広報誌の発行 ・ 敬老事業に合わせてメッセージカード作り ・ 福祉委員研修会
コミュニティセンターの活動	・ 世代間交流餅つき

○展望と課題

- ・ 少子高齢化により、核家族や高齢者のひとり暮らしの世帯が増えており、近隣との関係が希薄化しつつある。
- ・ 福祉活動委員だけでなく、住民全体で福祉活動の意識を高めることにより、人との繋がりを大切にしたい、助け合いのできる安心安全な住みよい地域づくりを目指していきたい。



日御碕地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 児童遊園地の補修整備 ・ 日御碕子ども安全見守り隊活動 ・ みさきっ子の成長を祝う会
高齢者支援活動	・ 見守り声がけ活動 ・ たすけあいチームでの福祉座談会 ・ 三世代交流活動 ふれあいサロン(年 24 回) ・ 健康運動教室(年 24 回) ・ 敬老会 ・ 手紙ボランティア(地区在住小学生)
障がい者支援活動	・ 見守り声がけ活動(町内単位で実施)
その他住民活動	・ 地域ボランティア養成講座
コミュニティセンターの活動	・ コミセン活動の参加者が地区でいろいろなボランティア ・ 小学生によるひとり暮らし高齢者のお宅訪問 ・ 学校支援ボランティア ・ 中高生ボランティア活動 ・ 認知症についての研修会

○展望と課題

- ・ 人口減少、少子高齢化が顕著に進行しているなかで、無理なく、効果的に「福祉のまちづくり」を進めていくための検討が必要である。
- ・ ひとり暮らし高齢者世帯、高齢者のみの世帯、昼間ひとり暮らし高齢者世帯の見守りをより一層強化する必要がある。
- ・ 地区内にある各種団体と連携を取りながら、地区社協の役割を果たしていく必要がある。
- ・ 円滑な福祉活動を行うためには、引き続いての安定した財源の確保が必要である。



「ふれあいサロン」参加者のみなさんによる
「ウェディングドレスでファッションショー」

鵜鷺地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
コミュニティセンターの活動	・ 当地区は鵜峠地区と鷺浦地区から成り、市内でも高齢化率が進む地域の一つであるが、町内会加入率はほぼ 100%の強い絆で結ばれているのが特徴。旧鵜鷺小を中心として、子どもたちのためならば何を差し置いても駆けつける共通認識が地域を一つにまとめていたことが大きな要因である。閉校とともにその気概は薄れてきたが、地域のためならばの思いは依然として強いものがある。 ・ サロン活動は両地区ごとに毎週水曜日と木曜日に実施。活動時間は 9:30~11:30 の 2 時間。外部講師を招いてストレッチなどの軽体操やゲーム感覚を取り入れた諸活動・歌集によるコーラストタイムなどを行う。コーラスは民謡から歌謡曲や童謡に至る様々なジャンルの曲をお腹の底から大合唱することで、健康維持に役立っている。 ・ ひとり暮らし高齢者が増加しているが、当サロン活動が安否確認の一助を担っている。休憩時の茶話会は貴重な情報交換の場にもなっており、何気ないやりとりが警察による特殊詐欺被害防止に関する講演会に発展した。 ・ コロナ禍の緊急事態宣言発令中は活動を一時中断したが、解除後は感染防止策を十分に講じていち早く再開するなど、工夫しながら実施している。 ・ 日頃は両地区で別々に活動しているが、四季の折々に触れて花見会など合同で開催することもある。また、コミュニティセンターの諸活動を通しての交流もしている。

○展望と課題

- ・ 当地区は梅雨末期の集中豪雨に見舞われ、一時避難所に希望するひとり暮らし高齢者を避難させる対応を取った。初めての開設であったが幸い人的被害は無く、毎年度継続する防災避難訓練の成果の現れとの検証や反省意見が寄せられた。今後も継続して、災害時避難行動要支援者の確認と更新を行う必要がある。
- ・ ひとり暮らし高齢者へ元気で笑顔溢れる生活を過ごしてもらえる高齢者サロン活動をおこなう。
- ・ 「情報交換」と「安否確認」をキーワードとして、サロン活動がさらに活発となるよう支援するとともに、人生百年時代を迎え、ますます健康で長寿を楽しむ日々への誘いとなるよう創意工夫を模索して行きたいと考えている。



ふれあいサロン活動



茶話会の様子

莊原地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 世代間交流しじみ採り：園児（年長組）と地元しじみ漁師、社協スタッフが宍道湖でしじみ採りを行い、特産大和しじみや宍道湖の生き物（宍道湖七珍）、環境について学びながら世代間交流を図る。 園児たちへの説明資料のイラストを斐川東中学校美術部の生徒に制作依頼するなど、幅広い交流の仕組みづくりを目指している。 ・ 世代間交流しめ縄作り：年末の伝統行事の継承と世代間交流を目的に、莊原小学校PTAと共催で、地元の達人（高齢者）の指導を受けながら、親子で正月飾りを作り家庭で飾りつける。地区内の幼稚園、保育園にも出向いて、しめ縄作りを通して園児たちとの交流を図っている。
高齢者支援活動	・ ふれあい交流会：介護施設利用者と地元高齢者が、花見、笹巻作り、そば打ち、しめ縄作りなど年 6 回程度開催し、高齢者間の交流を促進し地域の絆を深めている。 ・ 敬老会：75 歳以上の高齢者に贈呈するお祝品に、莊原小学校及び斐川東中学校の児童生徒全員が書いたメッセージカードを同封し、地域ぐるみで長寿をお祝いし地域間の絆を深める。（年 2～3 回）

○展望と課題

- ・ 当地区は世帯数が増加傾向にあるが、高齢化と自治会加入率の低下が顕著になってきている。
- ・ 福祉事業を進める上で、自治協会やコミセンとの連携は重要であるが、自治会未加入が多くなれば漏れが出てくる事が考えられる。地域全体で対策を考える必要がある。
- ・ 福祉活動をさらに推進するために、自治協会、コミセン、学校、福祉施設、各種団体などと交流をさらに深め、「住んで良かった町」「住みたい町」を目指す。



世代間交流しじみ採り



世代間交流しめ縄作り

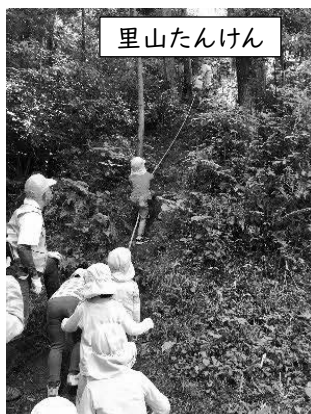
出西地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 新入学児童へのお祝い事業：新入学児童へ図書カード贈呈 ・ 子育てサロン：未就学児童とその家族を対象とした集いの場 ・ 里山たんけん活動：地区内の幼稚園児、保育園児に里山遊びの機会を提供 ・ 世代間交流事業：地域住民の世代間交流 ・ 伝統文化事業：親子での出雲五色天神作り ・ 遊び場補修：老朽化した遊具の補修、安全な遊びの場の提供
高齢者支援活動	・ 出西地区高齢者の集い（敬老会）の開催 ・ ふれあいサロン事業：地区内 8 サロン
障がい者支援活動	・ 障がいがある人と高齢者の交流事業：軽スポーツや音楽などで交流を図る
その他住民活動	・ 子ども見守り隊（青パト隊を含む）：登下校時の声かけ、見守り ・ 水源地ふれあいの会：地区住民全体の交流活動
コミュニティセンターの活動	・ 広報誌の発行：年 4 回発行。月例版発行 ・ 出西健康ウォーク：ウォーキングを通じた健康増進 ・ 出西わくわく教室：子どもを対象とした地区住民講師による生け花教室、茶道教室、おはなし会 ・ 年 4 回、季節に応じた自然体験活動

○展望と課題

- ・ 世帯数の増加に伴い、自治会未加入世帯の増加が予想される。
 - ・ 子育てに不安を抱える人が多い。継続して子育てサロンなど相談する場や集える場を提供することでの孤立感解消。
 - ・ 福祉活動の推進を担う人材育成のため、定年退職者への地域活動への参加促進。
 - ・ 地区住民が手を取り合い、安心安全で明るく住みよい地域づくりを推進。
- （参考）H28, 29 年度の出雲市同和教育研究指定事業の際、実施したアンケートでは関心を持っている人権問題として「子どもに関する問題」が 35.0%でトップとなっている。



阿宮地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ ミニまめっこルーム：子育て支援と親子のふれあいの場として年 4 回（3 か月に 1 回）開催。
高齢者支援活動	・ ふれあいサロン：毎月 1 回、概ね 75 歳以上の在宅高齢者対象。 ボランティアによる手作り昼食を提供。 ・ 小地域サロン（平成会、はつらつサロン）：毎月 1 回、在宅高齢者を対象に自治会公民館で活動 ・ 敬老会：75 歳以上の高齢者を対象に実施。
その他住民活動	・ 青色防犯パトロール：パトロール隊員が活動計画に基づき実施。 ・ 子ども教室：夏・冬の長期休業期間中に、幼稚園児や児童を対象に開催。川遊び、ものづくり、地区内クラブとの交流等。 ・ 阿宮の健康を守る会：早朝健康ウォークや健康のつどいを開催し、住民の健康に対する関心と意識の高揚。 ・ 自治会活動：各自治会主催でグラウンド・ゴルフ、ウォーキングなどの健康づくり活動を実施。 ・ 環境美化活動：地区内のゴミ拾い、草刈り等の環境整備、リサイクル活動（アルミ缶回収） ・ 地域ささえ合い研修（地区社協）
コミュニティセンターの活動	・ スポレク祭 ・ ラジオ体操 ・ 盆踊り大会 ・ 文化祭 ・ 早朝健康ウォーク ・ 健康のつどい ・ グラウンドゴルフ大会 ・ カローリング大会 ・ 料理教室 ・ 各専門部研修及び先進地等視察 ・ 文化講演会等

○展望と課題

～顔が見える 声が聞こえる地域づくり～

- ・ 少子高齢化の進行に伴うひとり暮らし高齢者及び核家族が年々増加している。
- ・ 次代を担う児童・青少年に対し、心豊かにたくましく自身をもって生き抜くことができるように育成するとともに、在宅高齢者が生きがいを持ち、安心していきいきと生活できるように地域での支え合いと介護予防に取り組む。
- ・ 災害のない地域づくりの為に防災対策の充実を図り、地域住民が連帯感とふれあいの心を培い、明るく住みよい、郷土への誇りと愛着を持てるような魅力ある郷土づくりを推進する。



伊波野地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
コミュニティセンターの活動	・ 当地区は住民の 1 割以上が外国人住民であり、人口・世帯数共に増加中。多文化共生社会の実現を図るため、数年前から多文化理解や多文化事業に取り組む。昨年度は「キャッサバ芋について学ぶ」をテーマにキャッサバ芋の苗植えと試食会を開催。 ・ 参加者募集チラシを外国語（英語・中国語・ポルトガル語）に翻訳し配布したところ、ブラジル人の方が 7 人参加し、日本人 8 人と一緒に活動した。キャッサバ芋料理は、日本人にも食べやすくアレンジしたものもあり、みんなで感想を言い合いながら試食した。活動の後には、互いに言葉を交わして交流を深めることができ、多文化共生社会の一步を踏み出す一助となった。

○展望と課題

- ・ 当地区は人口が増加している一方で自治会への加入世帯が減少し、新しく福祉活動の担い手となる人材の掘り起こしがしにくい状況。
- ・ 多文化共生活動については外国人への事業周知のための手段が分からず、手探り状態で進行している。
- ・ 今後、チラシだけではなく SNS を活用して地区住民に対し地域福祉活動について啓発していくことも検討している。



キャッサバ 芋の苗植え



キャッサバ 芋の試食会

直江地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ ピノキオの会や直江地区青少年育成協議会等のスタッフによる小学生日帰りキャンプ ・ 自然体験 ・ スイカ割り ・ 世代間交流 ・ 直江絵手紙の会による小学生を対象とした夏休み絵手紙教室 ・ 直江一式飾り保存会員の指導で、小学生がミニ一式飾り作製 ・ 同じく中学生といっしょに移動式枠に一式飾りを作製し、病院等の施設に移動展示
高齢者支援活動	・ ふれあいサロンを月 1 回開催。コロナ禍で小学生との交流が減少。本物のアジサイを見ながら色塗り。 ・ 直江健康づくりの会による健康に関する講演など。
障がい者支援活動	・ 直江絵手紙の会による小学校支援学級生徒に絵手紙指導。
その他住民活動	・ 戦没者慰霊祭。
コミュニティセンターの活動	・ 広報紙「コミュニティセンター報なおえ」年 5 回発行。 ・ 7 月 なおえ夏祭り開催。10 月 なおえ文化祭開催。 ・ 地域活性部 9 月なおえ花いっぱい活動。 ・ 総務部 9 月なおえふるさと探訪。 ・ スポーツ・レクリエーション部 10 月なおえ健康ウォーク。 ・ 健康・生活部 12 月寄せ植え教室。 ・ 高齢者・子ども支援部 1 月子どもスケート教室。

○展望と課題

- ・ 人口減少、少子高齢化、地域コミュニティの希薄化、ひとり暮らし高齢者・高齢者夫婦世帯や空き家の増加、自治会や介護の担い手不足等、課題ばかりで展望が難しい。
- ・ コロナで行事や会合等が中止になり、いろいろな団体も無難な中止を選択してきた。今後、地域で福祉活動をする場合、通常マスクと消毒そして体温測定を感染予防策としているが、感染するかもしれないという不安はある。しかし活動を積み重ね不安を少しずつ解消していくしかないと考える。



久木地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 夏休み中部小学校、幼稚園、保育所の子どもたち対象にサヒメル、さんべ森林公園で野外体験交流を企画、島根の魅力たっぷり自然を体験。 ・ 凧作り、餅つき交流会。西中学校ボランティアの子ども達と餅つき、高齢者宅訪問、餅配布。
高齢者支援活動	・ 高齢者施設訪問、野外の窓ふき清掃、奉仕活動。 ・ ひとり暮らし高齢者への鉢花配布。
障がい者支援活動	・ 社会福祉法人「桑友」との軽スポーツを通じた交流活動。 (1回/月:軽スポーツひさぎ)
その他住民活動	・ ふれあい地域の交流会。 ・ 久木地区戦没者慰霊平和祈念式を開催。 ・ 地区文化祭、同和問題、文化祭の各組織(災害対策環境保全、人権同和、自治協会)等にスタッフとして参加。
コミュニティセンターの活動	・ 夏休み期間中にコミュニティーセンターカレッジ、体験教室を開催し、学習支援やモノづくり等の体験。 ・ 健康、高齢者福祉、文化、子育て、災害対策に関する講演会や研修会を開催。 ・ 自治会加入の75歳以上を対象とした赤飯贈呈、祝い歳を祝う敬老事業。 ・ ふれあいサロン:久木なごみ会の開催(1回/月)

○展望と課題

- ・ 支え合い研修会の開催で地域の皆様から、子どもの見守り、居場所づくり、高齢者の支援等のネットワーク作りの必要性について、意見や課題がある。
- ・ 災害時に要支援者の援助や声かけ等についてまた地域住民の災害時避難体制の仕組みづくりが望まれる。



出東地区

○地域福祉活動の状況

活動	内容
子育て支援活動	・ 赤ちゃんサロン：毎月開いて相談を聞くと共に、母親同士のつながりも持てるように支援している。 ・ 世代間交流：小学校、子ども園、介護施設が隣接していることから、小学生の施設への訪問、子ども園児、施設入所者と芋植えなどを通して世代間交流を図っている。
高齢者支援活動	・ ウォーキングクラブ：ウォーキング交流会により高齢者健康増進を図ると共に、地元の大黒山ファミリー登山などで地区の子どもたちとの交流を深める活動を実施している。 ・ 介護者の集い：介護者の皆さんの気分転換や情報交換を目的として計画している。「ひとり暮らし世帯等への歳末訪問」も実施している。
その他住民活動	・ 通学路の見守りあいさつ運動：登下校時の声かけ、あいさつ運動、見守り活動を実施している。 ・ 自主防犯パトロール活動：地区住民による安全見守り活動を実施している。
コミュニティセンターの活動	・ ふれあいサロン：高齢者ふれあいサロンを実施している。コロナの感染が収束していけば「世代間交流餅つき大会」地区の子どもと高齢者との交流事業を計画している。

○展望と課題

- ・ 多世代同居家族が多いためひとり暮らし高齢者や高齢者世帯は比較的少ない地区だが、少子高齢化が進行し、ひとり暮らし高齢者は増加している。また、団塊の世代の高齢者世帯が急増しており、高齢者支援活動の充実とともに、活動内容の検討が必要となる。
- ・ コロナの感染の収束を願いながら多世代同居の地域特性を生かした世代間交流子育て支援事業の充実へ向け、地区全体での取り組みが必要である。

